

宮崎を震源とする最大震度5弱の地震が発生した1月13日午後9時20分ごろ、女性は自宅1階の浴室(広さ2畳)で、湯船につかり、シャワーを浴びた。風呂から上がり、スマートフォンを見て、初めて地震の発生に気づいたという。女性は「山鹿市の知人は『熊本地震以来の揺れ』と話していた。自分が地震に気づかなかったことに驚いた」と振り返る。

本当に浴室は揺れを感じにくく



場所なのか。崇城大工学部の東康二教授ら教員3人は、条件によっては「震度4の揺れを気づかない可能性はある」とみる。

条件とは①一戸建ての一階の風呂②広さ2畳程度で周囲に耐力壁のような強い壁が設置されている場合だ。さらに東教授らは「浴槽内のお湯は上下の温度差で常に対流が起きている。お風呂に漬かっている場合は体も動いているので、揺れに気づきにくい」と説明

する。また、揺れに気づきにくいという説明

# 地震時「風呂場は安全」…本当？

「地震の時、風呂場にいたら安全と聞いたことがあります。本当でしょうか？」。菊池市の自営業の女性(46)から熊日の「SNSこちら編集部」(S編)に疑問が寄せられた。今年1月に発生した震度4の揺れでも風呂にいて気づかなかったという。浴室は揺れにくく、安全な場所なのか。専門家に聞いた。

S編  
それ、調べます

## 鏡落下恐れ 床滑りやすく / 裸でも慌てず 履物備えを

ユニットバスを製造するLIXIL(東京)の開発担当者も、揺れを感じない可能性を認める。「ユニットバスが建物自体から独立した構造体である場合、地震時の揺れ方が建物と異なるから」と説明する。

熊本県警警備2課によると、2016年の熊本大地震直後に亡くなった50人のうち、「把握している限り、風呂場で犠牲になったケースはない」と言う。

それなら風呂場は地震時の避難場所に適しているのだろうか。東教授らは「危険物が多く安全とは言えない」と断言する。浴室には照明や鏡、カミソリなど落下の恐れがあるものが多い上、床が滑りやすく避難路の確保にも問題があるという。

では実際に入浴中に地震が起きた場合、どう行動すべきだろうか。防災士の柳原志保さん(52)「和木町」は「浴室内では服を着ていない。まずはその場に座って洗面器や浴槽のフタで頭や体を守る。揺れがおさまった後、服を着て避難する」とアドバイスする。

入浴中の被災への備えとして、着替え、連絡手段やライトとして活用できる携帯電話、ガラス片から足を守る靴(履物)の「3K」を挙げる。裸だと不安になるが、慌てるのは危険。落ち着いて行動して」と呼びかける。

それにしても「浴室は安全」は誤った情報だったのか。東教授ら3人は「台風や竜巻の時は比較的安全といわれている話。」「水がない状態の浴槽内で身を低くすれば、四方を壁で囲まれた状態になる。強風で割れて飛散するガラス片などから身を守ることができると教えてくれた。」

(石井颯悟)